

2018 Ophthalmic Surgery Film Award

日時：2018年10月12日(金)17:40～18:40 会場：第2会場(東京国際フォーラム ホールB7(1))

授賞結果報告

Ophthalmic Surgery Film Awardは、「手術のプレゼンテーション映像を一定の基準のもとで評価するシステムを確立していくことで、日本の眼科手術の発展に寄与する」という趣旨で2005年に設立しました。設立以来多くの先生方にご支持をいただき、また共催会社のご尽力などにより、2006年に第1回授賞式を開催、今年で13回目を数えることとなりました。Film Awardを始めたころは、まだこうした手術映像の評価システムは日本国内では根付いていなかったのですが、これまでの応募作品のアイデアが医療品や医療器具に実用化されるなど、日本の眼科治療の中に浸透、定着しはじめており、発起人として喜ばしく思っております。

例年申し上げておりますが、Film Awardは映像技術の優劣を競うものではありません。整ったきれいな映像ではなく、手作りの映像であっても新しいアイデアやコンセプトがあり、手術技術に優れているかどうかを重要視して審査をしております。なお、審査員が関連している施設からの応募があった場合、該当者は審査から外れるなどして、できるだけ公正な審査を心がけております。

このFilm Awardのセレモニーは、応募者の皆さんに一切事前連絡を差し上げず、Film Award当日に授賞発表をお待ちいただくスタイルを取っております。応募者の皆さんにとっては、緊張と興奮のひとつとなったことでしょう。

Ophthalmic Surgery Film Awardの表彰は次の3部門に分かれています。

- Technique/Complication Management部門
- New Concept部門
- Educational部門

それぞれの部門にGoldとSilverがあり、かつ全体を通して最も優れている作品に対して、Grand Prixが授与されます。審査の結果、今回もすばらしいGrand Prixと3つのGold、3つのSilverの作品が誕生しました。今回の7作品以外にもすばらしい作品が多く、私たちもとても勉強になりましたし、今後にも大いに期待したいと思っております。

Ophthalmic Surgery Film Award 選考委員代表 大鹿 哲郎

筑波大学
医学医療系眼科 教授
大鹿 哲郎 先生



2018 Ophthalmic Surgery Film Award 受賞者

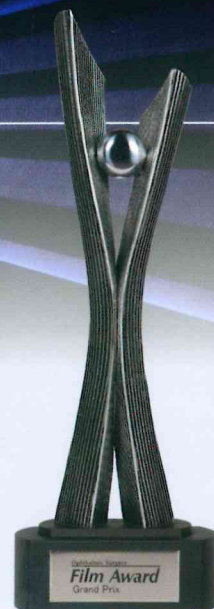
Grand Prix グランプリ

New Concept 部門

『離断虹彩鋏止め法 -Riveting-』

大阪赤十字病院 部長
秋元 正行 先生

まさかグランプリまで受賞できると思っていなかったのが驚いています。縫合したくないことを考えると、まだ応用の余地があるのかなと思っているので、さらに深めていきたいと思っています。



Technique/Complication Management 部門賞

Gold 『A trap technique for centering DSAEK graft』

眼科三宅病院 副院長
浅見 哲 先生

DSAEKのグラフトのセンタリングに手間取ることがあり、どこにでもある糸と針を用いてセンタリングが容易になる術式を考案しました。



Silver 『IAハンドピースを用いたバックフローハイドロダイセクション』

広田眼科 院長
廣田 篤 先生

海外の学会での受賞経験はありますが、日本のophthalmic awardは、非常にタフでなかなかとれません。とても嬉しいです。ありがとうございました。



New Concept 部門賞

Gold 『Pendular Phaco Technique』

岩見沢市立総合病院 眼科診療部長
坂本 文雄 先生

本賞の応募ビデオは私の日常を詰め込んだもの。この手技は多くの方に知ってもらい、試してほしいと思っていたので、とても嬉しいです。



Silver 『硝子体注射を安全かつ簡便に行うための器具』

医療法人とつか眼科 理事長
戸塚 伸吉 先生

素晴らしい賞をいただきありがとうございます。私は白内障の術前消毒にも使っています。ぜひご活用いただければと思います。



Educational 部門賞

Gold 『白内障手術初心者のための新しい核分割手技: Hall-assisted Chop法』

大阪赤十字病院 部長
秋元 正行 先生

専攻医の手を見ていて浮かんだ手技です。この受賞は私の言うことを受け止め実践してくれた専攻医の先生方のおかげだと思います。



Silver 『入局者をふやそう! 周術期管理のためのステップアップ眼底検査指導法+スマートフォン (iPhone)を用いたハンズフリー眼底所見共有』

総合病院土浦協同病院 科長
周藤 真 先生

眼底が見えないことで入局を迷う研修医が多いのですが、この方法を用いれば眼底検査習得までの期間が短縮でき、それを解決できると思います。周術期管理に活かして欲しいです。





選考委員代表

筑波大学
医学医療系眼科 教授
大鹿 哲郎 先生



横浜市立大学大学院 医学研究科
視覚再生外科学 主任教授
門之園 一明 先生



東京医科大学 臨床医学系眼科学分野
主任教授
後藤 浩 先生



慶應義塾大学 医学部
眼科学教室 准教授
榛村 重人 先生



金沢大学 医薬保健研究域医学系
眼科学 教授
杉山 和久 先生



2018 Ophthalmic Surgery Film Award

日時: 2018年10月12日(金) 17:40~18:40

会場: 第2会場(東京国際フォーラム ホールB7(1))



共催 第72回日本臨床眼科学会／エイエムオー・ジャパン株式会社／千寿製薬株式会社

2019年2月作成 20181012DVD

Ophthalmic Surgery
2018 Film Award
New Concept Silver Award

医療法人とつか眼科 理事長 戸塚 伸吉 殿

昭和大学 眼科学教室 内田 強 殿
眼科フォトグラファー

合同会社スタジオガレッジ 代表 宮川 篤 殿

2018 Ophthalmic Surgery Film Awardにおいて厳正なる
審査の結果貴殿は頭書の成績を収められましたのでこれを
賞します

2018年10月12日

選考委員代表 大鹿 哲郎

選考委員 阿部 一明 後藤 浩

橋本 重人 杉山 和久